

令和7年度 栃木県 英語教育改善プラン

目標

英語を使用する機会を充実させ、発話意欲を高めることで、日常生活で活用できる英語力を育成する。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①目的・場面、状況が設定された言語活動の必要性について、共有が図られている。

②単元で身に付ける資質・能力が明確化された単元計画が作成されている。

未だ改善が必要な点

①授業や家庭学習において、学習者用デジタル教科書があまり活用されていない。

②授業では、児童が英語を楽しく発話する機会があるが、日常生活で活用できる英語力を付けるには至っていない。

2. 要因分析

①②「指導の指針」を作成し、重点項目として設定している。また、指導主事研修会を実施し、県全体に周知を図ったことが要因と考えられる。

②各研修等で、教師が単元計画の作成と実践をする機会が図られたことが要因と考えられる。

①学習者用デジタル教科書の効果的な活用について、指導者の理解が不十分だと考えられる。また、搭載されている機能について十分把握できていないことが要因と考えられる。

②授業以外において、英語を使用する機会が少ないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②教育課程研究集会等の実施

・教育課程研修集会や基本研修、学校訪問等の機会を通して、学習到達目標の設定や把握について周知し、指導と評価の一体化について共有を図る。

①②英語教育強化事業の実施

・日常生活で活用できる英語力の習得を図るため、モデル校を指定し、学習者用デジタル教科書及び英会話等のAI学習アプリの活用を通して、好事例等を県全体へ波及する。
(モデル校：県内9小学校)

①②英語教育応援チーム派遣事業の実施

・児童の英語力向上及び教師の指導力向上を図るため、英語の授業づくり等を支援する応援チームを派遣し、言語活動やパフォーマンステストの工夫改善、学習評価の充実に向けた取組を支援する。

①②教員支援サイトの開設

・各事業を通して得られた県内の好事例等については、Webサイトに掲載し、授業改善に向けた具体的なイメージの共有を図る。

令和7年度 栃木県 英語教育改善プラン

目標

英語を使用する機会を充実させ、発話意欲を高めることで、日常生活で活用できる英語力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 41.9% ⇒ R7: 45.0%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業において、学習者用デジタル教科書を1%以上活用した割合が増加した。

(R5:80.3%⇒R6:92.8%)

②授業において、デジタルドリルや動画等のコンテンツを1%以上活用した割合が増加した。

(R5:82.9%⇒R6:94.1%)

未だ改善が必要な点

①授業において学習者用デジタル教科書を活用していない学校が一定数ある。

(R6:7.2%が未使用)

②CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合に変化が見られない。

(R5:40.1%⇒R6:41.9%)

2. 要因分析

①「指導の指針」を作成し、ICTの活用を重点項目として設定している。また、指導主事研修会を実施し、県全体に周知を図ったことが要因と考えられる。

②各研修等で、教師がICTを活用した単元計画の作成と実践をする機会が図られたことが要因と考えられる。

①学習者用デジタル教科書の授業での活用については、教師間で差が見られる。効果的な活用事例等が共有されていないことが要因と考えられる。

②生徒の英語力については、「話すこと」における言語活動が十分図られていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②教育課程研究集会等の実施

・教育課程研修集会や各教科等指導主事研修会等の機会を通して、デジタル教科書の活用を促し、指導と評価の一体化について共有を図る。

①②英語教育強化事業の実施

・日常生活で活用できる英語力の習得を図るため、モデル校を指定し、学習者用デジタル教科書及び英会話等のAI学習アプリの活用を通して、好事例等を県全体へ波及する。
(モデル校：県内6中学校)

①②英語教育応援チーム派遣事業の実施

・生徒の英語力向上及び教師の指導力向上を図るため、英語の授業づくり等を支援する応援チームを派遣し、言語活動やパフォーマンステストの工夫改善、学習評価の充実に向けた取組を支援する

①②教員支援サイトの開設

・各事業を通して得られた県内の好事例等については、Webサイトに掲載し、授業改善に向けた具体的なイメージの共有を図る。

令和7年度 栃木県 英語教育改善プラン

言語活動の充実及び学習評価改善による生徒の資質・能力の着実な育成

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 50.1%、B1以上 19.6% ⇒ R7 : A2以上 54%、B1以上 24%)
- 授業の50%以上の時間において生徒が英語による言語活動を行っている割合 (R6 : 35.6% ⇒ R7 : 50%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合に向上が見られる。
(R5) (R6)
[B1] 18.9%⇒19.6%
- ②教師の英語力について、向上が見られる。
(R5) (R6)
[B2] 70.7%⇒72.3%
[C1] 19.8%⇒23.4%

- ①授業における生徒の英語による言語活動について、その割合が低い学校が散見される。
(R6:35.6%)
- ②授業における教師の英語使用について、その割合が低い学校が散見される。
(R6:22.2%)

2. 要因分析

- ①悉皆研修や指導主事による学校訪問等において指導と評価の一体化の充実に向けた研究協議等を実施したことにより、授業改善に対する意識が高まり、英語の発信力及び英語力全体の向上につながったと考えられる。
- ②生徒の英語力を向上させるために、自身の英語力の向上を図ったことが要因の一つと考えられる。

- ①②英語による言語活動を中心にした授業や生徒の英語力向上に効果的な「話すこと」「書くこと」の言語活動の具体的な実践イメージが共有されていないことが一因と考えられる。また、学習到達目標を踏まえた単元の指導計画の作成及び言語活動の実践の重要性の理解が十分図られていないことも一因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①② グローバルリーダーの育成に向けた事業の実施
 - ・国際社会で活躍できる人材を育成するため、英語を重点的に学ぶ取組を行う研究校を指定し次の取組を実施し、その成果を普及する。
 - (1) 英語のみを使用した探究集中講座
実践的な英語力の獲得を目指し、ネイティブ外部講師の指導による、英語のみを使用した話し合いや発表等の講座を実施する。
 - (2) 言語活動の充実に向けた教員研修
英語による言語活動を中心とした授業の実践、指導と評価の改善を目指し、外国語担当教員を対象とした研修を実施する。
- ①② 指導主事による学校訪問の実施
 - ・指導主事による学校訪問において、授業見学及び研究協議を実施するとともに、訪問校における英語教育の課題等について外国語科担当教員と協議し、改善に向けた指導助言を行う。後日、改善の状況を聞き取り指導助言を行う等、継続的な支援を行う。
- ①② 教育課程研究協議会外国語部会の実施
 - ・各校の英語教育の課題を共有し、その解決に向けた方策や具体的な授業実践について協議する。その際、県内の好事例について、実際に使用されたワークシートやパフォーマンス課題、評価基準等を共有することにより、各学校における即時の実践と持続可能な指導の改善を図る。

目標達成状況一覧表

栃木県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	50.2	52	50.1	54		57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	18.9	21	19.6	24		27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	70	34.6	40	35.6	50		60		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	36.7	40	37.5	50		60		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	39.1	50	60		70		80	
		達成状況の把握(%)	70	44.9	50	60		70		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75	70.7	74	72.3	76		78		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	26.9	40	22.2	50		60		70	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	40.1	45	41.9	45		50		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	77.5	85		90		95		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	87.2	90		95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	98	100	100		100		100	
		公表(%)	80	61.8	65	70		75		80	
		達成状況の把握(%)	100	72.4	80	85		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	38.7	42	36.5	45		48		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	77.1	80		85		90		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	78.8	80	90		100		100	
		公表(%)	50	38.6	40	45		50		50	
		達成状況の把握(%)	80	68.1	70	75		80		80	